

### 1 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1175700168		
法人名	株式会社ウイズネット		
事業所名	グループホームみんなの家蓮田東		
所在地	埼玉県蓮田市東2-1-19		
自己評価作成日	平成28年10月4日	評価結果市町村受理日	平成28年11月29日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 ケアシステムズ		
所在地	東京都千代田区一番町6-4-302		
訪問調査日	平成28年10月23日		

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

業務が中心の運営にならない様に、施設生活のご利用者様に何か楽しみな時間を設ける事が出来ないか？  
 考えて、年齢が高い職員の配置などを検討する時に、短い時間でレクを出来る時間は無いかと検討した結果  
 得意分野を活かして、毎週木曜日13時30分～レクの時間をスタートしました。皆さんが集中して参加する時間に手ごたえを感じています。  
 職員のモチベーション向上の為、やる気のある職員は昇格をして責任を持ち業務に取り組んで貰うなど、今年度は挑戦の年にしました。

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

・毎週木曜日の午後には、職員が利用者と一緒にレクリエーションをおこなうことを定例化しており、利用者一人ひとりが残存能力を維持し、さらに心身が活性化できる様になっている。また、働き盛りの家族が多くホームへの訪問機会が少ないことを踏まえ、入口エントランスにはさまざまな活動を写真によって掲示し、面会時の話題になるようにしている。ホーム長の方針によって、できる限り有給休暇を取得できるようにしている。結果として職員の定着率が高いことや、ストレスが溜まらない人事マネジメントが出来ていることがうかがえる。

### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ご利用者様優先の生活を重視して、個人の意向を尊重した生活をゆっくりと楽しみながらの生活を提供いたします。	・法人理念をもとに運営に関する基本的な考え方を明示し、職員会議において周知している。本年度は、「利用稼働率の向上」「健康管理」「重度化への対応」「経営数値に関する理解」などを重点としている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	職員会議などの時間を使い分かりやすい言葉で職員へ伝えていきます。	・地域との連携を図ることを目的に、近隣の医療機関や居宅介護支援事業所への情報提供や関係機関との会議などに出席している。また、ホーム見学にも随時対応しており、開かれたホーム運営に努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	市役所の会議などにも参加する事や、地域の居宅ケアマネさん達とも横の繋がりを持ちご利用者様を受け入れて、グループホームを知って頂く活動をしています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	出きるだけ参加出来るような行事を合わせて参加出来る内容で案内を通知しているが参加頂く人数は毎回数人程度になっている。	・運営推進委員会を2か月に1回の頻度で開催している。構成メンバーは、ホーム長・フロア長・職員・家族・地域包括の職員である。ホームの運営状況の説明や会議録も適切に作成されている。	・地域包括支援センターの職員などは概ね出席しているが、家族の参加率は減少していることが懸念される。開催日や時間帯の見直しやテーマの刷新などを検討されたい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市役所へなるべく足を運び、直接担当者の方とお話し出来る機会を設け近況報告をする様にしています。	・ホーム長が市役所を定期的に訪問し、ホームへの理解、信頼関係の構築に取り組んでいる。ホームのパンフレットも市役所に常置してもらえるようになり、市から入所相談も来るようになったとしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	グループホーム内での禁止行為は業務を通し職員へ伝え実践を通し理解を求めています。玄関の施錠についてはご入居時にご家族様にお話しをする様にしています。	・毎月、フロア長会議後に身体拘束委員会を開催しており、会議録も整っている。事例を用いて職員間で勉強会を開催し、『行動制限をしない』という逆発想によって現在は身体拘束「ゼロ」を継続している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待についての研修には順番に行ける様にシフト組をしています。職員のストレスの無い職場作りにも出来る限り努力をしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	社内、社外の研修には出きるだけ参加を促す。経験年数でホーム長が厳選をして行って頂く事もあります。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の説明は時間を2時間程度頂く事を事前に伝えていきます。実調査時にこの先に流れや、ご家族様のスケジュールをお伺いしてスムーズな契約が出きる様にしています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族様が今何を悩んでいるのか？何に興味があるのか？話題のニュース、流行の風邪などの前に予防の内容で反映出きる様に話題を作っています。	・運営推進会議への家族の出席、日頃の面会などはあまり旺盛でないことをホームでが懸念している。毎月「一言通信」を郵送して伝えるとともに、面会時は積極的に要望を把握することに取り組んでいる。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	出きるだけ、ストレスの無い職場環境を作る事を常に考えて運営しています。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	モチベーションを上げる為に、やる気のある職員は正社員に昇格出来る様に指導しています。パートさんの意見を伺い、業務時間を増やして仕事をして頂いています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	正社員もパートも垣根がない環境、新人職員でも意見の言える環境、仕事に対する責任を持つ事でプロとして仕事をする意識を一人一人に育て、アドバイスをしています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	エリア会議などにも参加して、沢山の意見を聞いて下さいます。とても近い関係で安心して業務が出来ます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご家族様が何を施設に望み入居を決めたのか、出来ない事も出来る事も伝える事により、一緒に介護を関わって頂く事を目標にご家族様との関係を築いています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	キーパーソン、ご兄弟、姉妹様など、色々な方とお話をさせて頂き、沢山の意見の中で要望が何か考えて対応しています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居時にご家族様との関係性で、お預かりして少し時間を置いて頂くご家族様や、頻回に面会をお願いする方を選びご家族様の負担を軽減しています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	今までの生活環境に近いタイムスケジュールで生活をスタートしている。徐々にホーム内スケジュール合わせて行ける様に促します。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様が、ホームに訪問しやすい環境を作る様に職員の対応なども細かく指導している。家族との時間は出きるだけ楽しい時間になる様に排泄のタイミングなども伝えていきます。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居時に、親戚、知人、近隣の方が訪問をする時のお約束をお願いしています。キーパーソンが必ず事前にご連絡を頂いた方のみ施設内のご案内する事を周知しています。	・家族などの近親者の面会や外出をはじめ、外泊などにも対応しており、利用開始前の関係ができる限り継続できるようにしている。また、利用開始時は家族の意向のもとに面会者を制限する対応もしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	出きるだけ、お茶やおやつの時間に団欒の出来る時間を設けています。お話しが弾む様に職員が間に入り和やかな時間を設けています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご主人が3年前にご利用されて、その後3年後に奥様が入居されたケースが今年4月にありました。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	個人ケア個別の対応なども自然の形でケアができる様に職員が配慮しています。細かくカンファレンスなども行う様にしています。	・ユニット会議を開催する際にはカンファレンスを行い、利用者の状況を確認することになっている。また、法人所定の書式によってアセスメントの見直しは6か月毎、モニタリングは3か月ごとに行っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	出きるだけ、今までの生活環境を職員が把握する。NGの言葉などにも注意をする。出来る事をなるべく促し生活暦を忘れない様に対応しています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人の時間なども大切にしています。個人で出来る事も職員と一緒に発見出来る様に細かく観察をしています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	フロア長、計画作成者中心でサービスの内容を周知して、変化や環境が変わってしまった時は、カンファレンスを行う。	・本人や家族の意向をもとにケアプランを作成し、郵送によって確認している。返信用封筒に『記念切手』を活用することで少しでも家族に興味を持ってもらう工夫をしており、返信率は100%になっている。	・運営推進会議をはじめ、ケアカンファレンスにも家族の積極的な参加を促し、さらに、家族・本人・ホームが一体となって支援を提供する仕組み作りが期待される。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活記録にナンバリングを行いプランに反映しながらプランを実行しています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	車椅子に変更した時、入院した時、退院した時にプランの変更をしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣の方が入居している事が最近多い為、自宅に気軽に帰る、ご家族様と地域の行事に参加する事も増えました。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	地域のドクターが往診しているので、心配な事は事前にご家族様がドクターと直接相談して連携を取って頂いています。	・主治医の往診が月に2回あり、さらに体調不良時には職員がクリニックへ連絡し、必要に応じて受診対応をしている。家族が個別にクリニックへ訪問し医師に相談をすることも可能となっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回日曜日 午後の時間で医療連携看護師の訪問があります。相談の的確に返答して下さるので、安心しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院がありそうな受診の時は、持参の薬、処方箋、入居時サマリーを準備してご家族様に持参して頂きます。入院後は出きるだけ時間を空けずに病棟看護師さんに、ホームでの様子を伝えに行きます。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族様の意向や、ドクターの方針な度も細かく伺い出来る事、出来ない事を明確にして出きるだけ意向に添う様に生活して頂きます。	・今年度の看取り介護の実績はないが、以前に医師・訪問看護と協働して看取り介護を行った実績がある。今後はホームとしても一定の条件などを明確にして看取り介護を検討している。	・利用者のニーズがさらに多様化することを踏まえ、看取り介護の仕組みを明示することが期待される。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	市内で行うAE講習会の参加を呼びかけています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回避難訓練を行っています。	・市の消防隊と連携し、年2回の防災訓練を行っている。地域住民と協働した防災訓練も今後は検討したいとのこと。家族アンケートの自由意見欄には、災害時の対応に関する説明を求める声が聞かれていた。	・地域住民とも日頃からコミュニケーションを図り、災害時には協働して避難できる体制づくりを構築することが求められる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人を尊重する。お客様としての対応を忘れない様に心がけています。	・入浴や排泄などの介助をする際には、できる限り肌を露出しないように努めている。また、トイレ誘導を行う際にも本人しか分からないように声かけするなど配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	おやつや包装などは、出来る方は自身で開けて食べて頂くことを、日常生活で実践して頂き指先を使って頂いています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	体調などを考慮した、声掛けなどを実行しています。余り強引にならない様に対応には配慮しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴をする事、洗濯などを小まめに行う事職員が配慮出来る事は自然に声をかけて対応しています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の前に献立を伝えるなどの声を掛ける事を行っています。ランチョンマットを使うフロアなどもあります。	・厨房運営を外注しており、日々の食事作りには利用者は参加していない。下膳やテーブル拭き、おやつ作りなどによって「食」に関する機会として、お誕生日食などで楽しんでもらえるようにしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量の少ない方には 経口栄養剤を使い対応する。食事主食の量を個人別に対応しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の口腔ケアは習慣に出きる様に必ず行う		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の時間 下剤のコントロールを個人で対応している。時間や敵数なども個人で対応しています。	・法人共通の24h排泄チェックシートによって、利用者一人ひとりの状態に沿った支援が提供できるようにしている。また、医師や看護師と連携してバルーンカテーテルの留置者やストマの利用者も受け入れている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	ヤクルトさんでヤクルトを購入。摂取時間などを考えて対応しています。なるべく水分の摂取ができる様に内容を変えて好きな物を摂取して頂いています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	職員が、入る時間などを事前に本人と相談をして促しています。	・家庭用のユニットバスの他にリフト式の浴槽も配置しており、状態に沿った入浴支援が提供できるようにしている。また、入浴拒否が見受けられた際には、時間帯や声かけの担当者を変更して入浴を促している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	部屋の空調温度、ライトの光 日中の昼寝の時間などを考えて、なるべく同じ時間に対応しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ドクターと細かく相談して、出きるだけ少ない薬で対応しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	毎週木曜日午後レクの時間を作りました。週1回5時間の勤務職員が担当して習字や手芸工作など各階に周り対応しています。玄関の毎月の作品は各階で月ごとに交代で作品を制作しています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご家族様との家族行事には出来る限り参加を進めています。当日排泄に困らない様に下剤のコントロールを数日前より行い、前日には入浴ができる様に対応しています。	・近隣への散歩をはじめ、今後は敷地内のデイサービスなどと連携を図りながら外出機会をさらに確保することを目指している。	・家族アンケートの「戸外活動は充実しているか」の設問に関しては、回答者の約半数が「さらなる充実」を期待しており、ホームとしても改善することが期待される。



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居時に相談をして、紛失しても問題ない金銭を所持して頂いています。買物時自身のお金で買物をする方もいます。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	事務所内の電話は自由に使えます。個人で携帯電話を持っている方も居ます。手紙などは職員がお願いをされてポストに入れる事もあります。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の壁画などを職員と作成して、季節感をだしています。	・季節を感じてもらえるような装飾に取り組んだり、毎週木曜日には広いスペースにおいて職員と一緒にレクリエーションを行い、心身が活性化できるようにしている。スペースの適切な運用がなされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂内にソファを置き一人で過ごせる時間を低起用しています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時にご自宅で使った物をお持ちになる方も居ます。	・火器や冷蔵庫などを除いて居室には原則持ち込み自由としており、利用開始時をはじめ状態が変化した際には都度家族と話し合い居室内の環境を整えることにしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	出来る事に挑戦できる。自信を持ってもらうなど促しながら生活を送れる様に支援しています。生活の中で出来る喜びを見つけて頂く。		